



2011年3月期(平成22年度)
第1四半期決算説明資料

2010年8月5日

ダイキン工業株式会社

2011年3月期第1四半期決算説明資料

- 第1四半期決算概要・・・・・・・・・・・・・・・・P.3
- 第2四半期、通期業績見通し・・・・・・・・P.4
- 第1四半期部門別業績・・・・・・・・P.5-11
 - 部門別売上高/営業利益
 - 地域別売上高の推移—空調事業、化学事業
 - 部門業績の概況

■ 第1四半期決算概要



- ▶ 売上高は、空調事業の中国・アジアでの拡販および化学事業での自動車・半導体市場向けの拡販により前年比増収
- ▶ 営業利益は、売上増に加えトータルコストダウンなど経営体質強化の継続により前年比大幅な増益
- ▶ 今期計画比では、売上高・営業利益とも計画通り

(単位:億円)

	1Q実績(4-6月)		
	09年度	10年度	前年比
売上高	2,323	2,609	112%
営業利益 (利益率)	53 (2.3%)	157 (6.0%)	299%
経常利益 (利益率)	65 (2.8%)	150 (5.8%)	229%
当期利益 (利益率)	23 (1.0%)	66 (2.5%)	289%

*為替影響(対前年度)
 売上高:▲92億円
 営業利益:▲24億円

為替レート

ドル/円	97	92	—
ユーロ/円	133	117	—

■ 第2四半期、通期業績見通し



(単位: 億円)

	2009年度実績			2010年度計画		
	上期	下期	年間	上期	下期	年間
売上高	4,979	5,261	10,240	5,600	5,950	11,550
営業利益 (利益率)	184 (3.7%)	256 (4.9%)	440 (4.3%)	320 (5.7%)	410 (6.9%)	730 (6.3%)
経常利益 (利益率)	179 (3.6%)	259 (4.9%)	438 (4.3%)	300 (5.4%)	390 (6.6%)	690 (6.0%)
当期利益 (利益率)	101 (2.0%)	92 (1.7%)	193 (1.9%)	155 (2.8%)	215 (3.6%)	370 (3.2%)

為替レート

ドル/円	96	90	93	91	90	91
ユーロ/円	133	129	131	114	110	112

- ◆ 上期および通期の業績予想数値(5月公表)は変更しない
- ◆ 第2四半期以降の想定為替レートを修正(1ユーロ=120円⇒110円)
- ◆ さらなる拡販施策の実行、経営体質の向上により業績の上積みを図る
 - 全事業で当初計画を上回る拡販に挑戦
 - ・ 空調事業では、日本、欧州での猛暑効果を取り込み。
好調な中国・アジアでの更なる拡販。
 - ・ 化学事業では、自動車・半導体市場への拡販に注力。
 - コストダウンの積み増しや、固定費圧縮の推進

■ 第1四半期 部門別売上高/営業利益



(単位:億円)

売上高	1Q実績(4-6月)		
	09年度	10年度	前年比
空調	2,120	2,295	108%
化学	161	254	158%
その他	42	60	144%
全社	2,323	2,609	112%

2010年度 計画	前年比
10,120	111%
1,080	125%
350	120%
11,550	113%

営業利益	1Q実績(4-6月)		
	09年度	10年度	前年比
空調	88	159	181%
化学	▲ 21	7	—
その他	▲ 14	▲ 9	—
全社	53	157	299%

2010年度 計画	前年比
645	141%
80	1143%
5	—
730	166%

■ 地域別売上高の推移-空調事業



<参考>5月公表

(単位:億円)	2006年度1Q		2007年度1Q		2008年度1Q		2009年度1Q		2010年度1Q		2010年度当初計画	
日本	104%	839	110%	919	101%	932	84%	780	103%	806	112%	3,635
ヨーロッパ	105%	524	212%	1,112	79%	883	68%	597	96%	576	104%	2,290
中国	123%	137	180%	247	124%	307	70%	214	145%	310	123%	1,600
アジア	143%	114	193%	220	126%	277	70%	194	126%	244	111%	920
アメリカ	167%	10	2440%	244	98%	240	82%	197	103%	202	116%	1,000
オセアニア	112%	66	145%	96	111%	107	77%	82	113%	93	103%	405
中近東	71%	10	430%	43	149%	64	50%	32	142%	45	110%	195
アフリカ	133%	8	225%	18	106%	19	126%	24	81%	19	103%	75
計	108%	1,708	170%	2,899	98%	2,829	75%	2,120	108%	2,295	111%	10,120
海外売上高比		51%		68%		67%		63%		65%		64%
為替レート(ドル/円)		115円		121円		105円		97円		92円		90円
(ユーロ/円)		144円		163円		163円		133円		117円		120円

■ 地域別売上高の推移-化学事業



(単位:億円)	2006年度1Q		2007年度1Q		2008年度1Q		2009年度1Q		2010年度1Q	
日本	102%	110	105%	115	105%	121	53%	64	157%	101
アメリカ	119%	85	86%	73	105%	77	60%	46	146%	67
アジア	67%	18	106%	19	123%	24	63%	15	156%	23
中国	121%	24	114%	27	121%	33	61%	20	182%	37
ヨーロッパ	114%	17	148%	26	113%	29	46%	13	172%	23
その他	64%	0.3	85%	0.2	753%	1.8	142%	2.5	87%	2
計	105%	254	102%	260	110%	285	57%	161	157%	254

<参考>5月公表

2010年度当初計画	
129%	442
113%	250
131%	93
141%	190
112%	91
114%	14
125%	1,080

海外売上高比	57%	56%	58%	60%	60%	60%
為替レート(ドル/円)	115円	121円	105円	97円	92円	90円
ユーロ/円)	144円	163円	163円	133円	117円	120円

■ 第1四半期部門業績の概況



空調事業

国内

- ・住宅用の需要は、個人消費の低迷に加え4、5月の天候不順により前年を下回った。
当社は、新商品(上下左右「4方向気流」を搭載した『うるるとさらら』)の投入や小型普及ゾーンの拡販、6月以降の好天候もあり販売回復したが、前年を下回った。
- ・業務用の需要は、前年並みとなった。
当社は、省エネ提案の強化など販売店フォローの徹底や『ECO-ZEAS80』などの省エネ差別化商品の投入により前年を上回った。
- ・エコキュート(ヒートポンプ給湯機)は、住宅設備に強い販売店(エコ・プランナーズ・クラブ店)の展開などの営業強化策により、シェアを拡大。

	(千台)	2010年度			
		1Q実績	前年比	年間計画	前年比
住宅用	業界	1,878	98%	7,000	104%
	当社	—	99%	—	113%
業務用	業界	179	101%	606	100%
	当社	—	102%	—	103%

(当社予測)

■ 第1四半期部門業績の概況

空調事業

欧州

- ・需要は昨年来の低い水準に留まったが、当社は販売店フォローと積極的な販促活動を展開しほぼ計画通りに推移。
- ・住宅用は、特にイタリア、フランス、スペインでやや計画を上回って推移。
- ・業務用は、前年を上回りほぼ計画通りに推移。需要の底打ち感はあるが、依然として回復は鈍い。
- ・暖房事業(ダイキンアルテルマ)は、高温水ダイキンアルテルマの販売が寄与し前年比126%(台数ベース)となった。

中国

- ・1Q(1-3月期)は大幅な増収となった(前年比145%)。
内陸部への拡販、住宅用、業務用、アプライドなど品揃えの拡大や、販売店強化・人員増強による販売体制強化を進めた。
- ・2Q(4-6月期)以降も引き続き好調で、当社販売も高い伸びを維持。
- ・インバータ普及機を新たに投入した住宅用は順調に推移。
省エネ足切り規制の強化(6月より実施)もあり、インバータ機の更なる普及を図る。
- ・暖房事業は、中国仕様のダイキンアルテルマの引き合いが強い。

■ 第1四半期部門業績の概況

空調事業

アジア・オセアニア

- ・全体的に好調に推移。
- ・タイ、シンガポールでは、計画を上回って進捗。特に、タイでは4月以降猛暑が続いており大きく販売を伸ばしている。
- ・インドでは、住宅用のボリュームゾーンモデルを投入を開始し、大きく販売を伸ばした。
- ・ベトナム、インドネシアでは、販売店開発が進み順調に販売を伸ばした。
- ・オーストラリアでは、住宅購入補助金の終了や金利上昇の影響などが懸念されたが堅調に推移。

北米

- ・アプライド事業の需要は厳しいが、当社は計画通り推移。
足元では引合は回復傾向にある。引き続き新製品を武器に省エネ性訴求を行い、受注獲得を目指す。
- ・ダクトレス・VRVは、販売網整備と需要創造を図り、計画を上回る。

化学事業

- ・大幅な増収、増益。
- ・自動車・半導体市場の需要回復をとらえた拡販施策の展開に加え、中国でのインフラ投資向け需要を取り込む。
- ・営業利益は、計画通り進捗。
市況高騰の影響を受けたが、好調な製品の拡販に加え、前年度に引き続き固定費削減などの事業体質強化を継続し、前期の赤字から大幅に改善。



ダイキン工業株式会社

予測に関する注意事項

本資料は情報提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料(業績計画を含む)は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその確実性・完全性に関する責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願い致します。本資料の見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断により生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。